

保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
神奈川県保育会

発行人
都 築 融 光

題字
故 内山岩太郎 筆

子育て支援の視点を考える

神奈川県保育会
会長 都築融光



今「かながわらしき」を強

調出来る次世代育成支援の条
例作りが専門家の先生を中心
に検討され、間もなくその条
例案が採択されます。しかし
行政と専門家の手によって考
えられた案が我々施設の現場
や地域で実践するのはいつ頃
のことなのだろうか。検討委
員会のある先生のメッセージ
「歴史的に見た少子化問
題！」の中で読みとれること
は人口が減少から増加に転じ
るのに必要な時間、あるいは
現象は世紀をかけて取り組ま
なければならぬことである

様に思えます。急激な人口の
減少あるいは、急激な人口の
増加はいずれも社会の崩壊を
招くといわれております。豊
かな人口社会を実現させるの
は誰もが願う夢であります。
結婚は成人した男と女の営み
であり次世代に子孫を繋ぐ命
のリレーなのであります。こ
の問題を仏教的な視点に遡っ
て、命のリレーを考えて見ま
しょう。自分には先祖が何人
いるか考えて見たことがあり
ますか、私にとって一代前の
先祖は両親二人であります。
二代遡ると四人三代遡ると八
人と代々の計算が続いていき
ます。そして、それはたった
一人でも欠けることなく命の
リレーをしてくれた先祖のお
かげで、今私がここにいます

であります。新年を迎えると
すぐに私の家の前を箱根駅伝
の選手が勝敗をかけて襷リレ
ーを見せてくれます。たった
十人の駅伝リレーでも襷の繋
がらないことがあるのに私達
の先祖は何億もの命の襷リレ
ーを重ねて来てくれたのであ
ります。もし今一人の少年が
いじめや交通事故で死んでし
まったとしたらこれから数百
年の間に生れて来るであろう
何百万、何千万の命の可能性
が瞬時に消えてしまうのであ
ります。日頃あたりまえにし
か思っていないかった私の命が
今あるということを持ち難く
思わなければなりません。

さて現実社会の子育て支援
を抽象的ではあるが身近なと
ころに置いて考えて見ましょ
う。明治生れの人達が口を揃
えて言ったことは「畳の上で
死にたい」ということでした。
畳の上なら何処でもいいとい
うことではない、子や孫のい
る家族にという意味でありま
す。その視点で考えて見ると
子育て支援は何をキーポイン
トにしたらいのか、何処を
中心に展開したらよいか答
えは自ずと見えてくるように
思われます。

私達がここまで日々行つて
きた保育、また、これから先
新たな展開をしていく子育て
支援、子ども達にとって一番
のオアシスは家庭であり家族
であることを子育て支援の柱
として保育者が取組む必要が
あるのではないか、そして今
ここにあるそれぞれの命を次
の時代へ繋ぐ大切な仕事であ
ると認識し、家族の襷リレー
を私達保育者が子どもを通じ
て援助して行く必要があると
考えます。

保育所がすすめる次世代育成支援

—地域に広げる子育て支援—

第40回 神奈川県保育事業大会



少子化社会への対応は、重要課題として、次世代育成支援施策を子ども・子育て、応援プランをとおして進めることとしており、特に、施策の基本理念として掲げられている「社会連携による子どもと子育て家庭の育成・自立支援」では、保育所は大切な役割をはたしていくことで期待が高まっている。

このような課題をふまえ、今大会は、実践に基づく研究の成果発表・活発な討議等をおし、より高い保育の質の確保と向上を目指し、また、長年にわたって保育につくした功労者を表彰することにより保育事業の一層の発展を図ることを目的とし開催いたしました。

平成十八年四月二十二日(土) 第四十回神奈川県保育事業大会が神奈川県社会福祉会館において、約六百五十名の参加者が集い、「保育所がすすめる次世代育成支援」の主題のもと、盛大に開催されました。

式典は開会のあいさつに始まり「花のおさな」の斉唱と「児童憲章」の朗読の後、主催者を代表して、都築会長より保育を取り巻く環境や保育の

動向等についてあいさつがありました。

引き続き、長年に亘り多くの園児たちのために献身的な努力をされた九十三名の方が永年勤続者として表彰されるとともに、保育事業発展のため多大な貢献をされ、藍綬褒章(一名)、厚生労働大臣表彰(一名)、神奈川県保育賞(四名)の栄に輝かれた方々に記念品の贈呈があり、その功績を称え、参加者より惜しみない祝福の拍手が沸き上がりました。

来賓の神奈川県次世代育成担当部長島津直美氏、神奈川県議会議長長牧島功氏、神奈川県市町村長代表島村俊介氏、保育士養成施設協会会長平野建次氏の各氏からは、大変心温まるご祝辞をいただき、祝電披露の後、閉会のあいさつで式典を終了しました。

平成十八年度 神奈川県保育会総会

式典終了後、会場を移し総会が開催されました。会長あいさつ、議長選任の後議事に入り、第一号議案として平成十七年度事業報告及び収支決算並びに会計監査報告、第二号議案として平成十八年度事業計画及び予算(案)について説明があり、審議の結果、承認されました。

午後には、三会場に別れて研究発表がおこなわれ、第一会場では保護者の多様なニーズに応える取り組みについて第一会場では一・二歳時の現状と保育・子育て支援のあり方、また、第三会場ではフリー発表テーマによる研究発表がなされ、各会場とも熱心な意見交換が図られました。

今回、各々の会場に参加された方々からの報告を掲載いたします。

研究発表 討議

第一会場

第一会場では、保育所の今日的な課題に対応して行くためにと題して、地域住民のニーズに沿った子育て支援として設立された乳幼児総合施設・箱根町立仙石原保育園・幼稚園(通称「仙石原幼児学園」)から発表がありました。

幼稚園、保育園の区別なく教育と保育を大事にした合同カリキュラムに基づく保育を行っているが、最初の頃はすれ違いのあった職員の意識も園内研修や保育実践を重ねるなかで「一人ひとりの子どもを大事にした保育をめざすためには」「子どもの視点に立って共理解や連携実践をしていくことが大切で、それらを念頭にお互いの意識改革につなげられたこと。また両園の保

護者同士も行事等の交流を通して子育ての情報交換に役立っていること。さらに通園していない地域の保護者に対しても子育て支援センターの利用や関係機関との連携により、地域の多様なニーズに応えている等の実践状況が発表されました。

第二会場

第一会場では、子育てと子育て家庭を支える保育所となるために、という大きなテーマでありましたが三つの研究会から発表がありました。

①厚木市公立保育所研究部会から「食育」一・二歳児の食育と子育て支援について」と題し発表がありました。

アンケートから絵本作りまでわかり易くまとめられていました。

②鎌倉市保育士会保育内容研究会から「食事・排泄・自我の育ちと表現」一・二歳児の現状と子育て支援のあり方」といったテーマで発表が

第三会場

第三会場では、二つの研究会から発表がありました。

①海老名市保育士会から「絵本との出会い」について

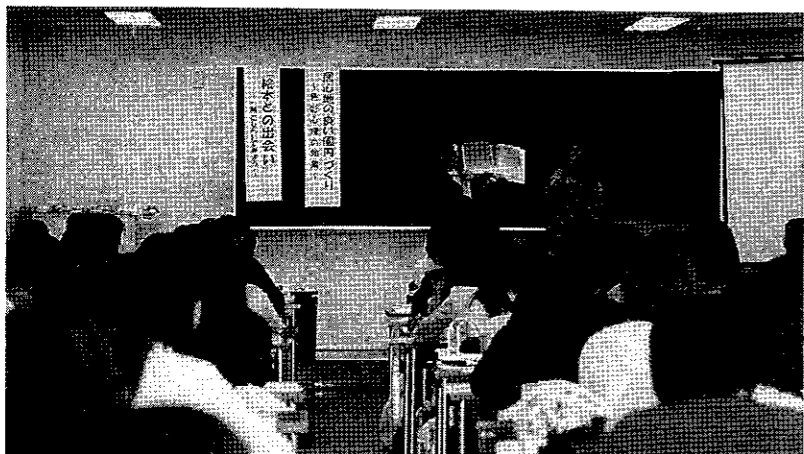
の発表がありました。

現代社会において、刺激的な映像があふれる環境のなかで生活する、特に一・二歳児親子を対象にアンケートによる実態調査、講師を招き、絵本選びについての研究会の開催(保育士対象)また、それらを踏まえた絵本リストの作成を保護者への啓蒙、園内における絵本環境の充実等について研究されていきました。

保護者を巻き込んだ研究は、子育て支援にもつながることから大変有意義だったと思われました。また、地域の親子にも読み聞かせを行っているとのこと、今後ともぜひ継続して行っていたらいいとの念を抱きました。

また、神奈川県保育士会保育内容研究会からは「居心地の良い園内づくり」とのものと研究発表がありました。

める方法として色彩心理の効果について研究されていきました。子ども達が色を染しみ、自由に自己表現出来る環境を保障すること、生活の中にバランスよく効果的に色彩を取り入れ、居心地の良い環境づくりを保障することが豊かな情緒が育つ一因とのことで、是非取り入れていきたい事例であると思われました。



軽井沢での豊かな自然の中で……

第四七回関東ブロック保育研究大会

去る六月二十一、二十二日の両日、長野県軽井沢町に千五百人の参加者が集い、美しい山々と木々の緑が鮮やかなプリンスホテルの会場で盛大に大会が開催されました。

大会初日。オープニングアトラクションは、長野冬季オリンピックにも出演した国の重要無形文化財である天下の奇祭「岳の幟(たけののぼり)」ホテルの高い天井に届かんばかりの長い竹ざおを覆う色鮮やかな反物。岳の幟保存会の方と上田市の子ども達も一緒に、なつて伝統の踊りを舞い、会場からは大きな拍手が鳴り響きました。

記念公演は生活の大部分は旅暮らしをするという放送タレントの永六輔氏
少子化や家族関係、子育てについてユニークな視点でとらえ、魅力ある話し方に会場

は笑い声が絶えない中にも考えさせられる講演でした。



行政説明は厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課企画官 八代敦雄氏より保育所をめぐる諸課題。中でも「認定こども園」についてこれまでの経緯や法律の概要について詳しく説明をしていただきました。実施を目前にして参加者の関心が高い内容でした。

二日目

第一分科会

保護者の多様なニーズに応える取り組み

(保育所の今日的な課題に対応していくために)
保護者の潜在ニーズをどう把握するか。多様な保育ニーズの対応について。地域のネットワークの対応のあり方。地域ニーズにそった子育て支援のあり方、など各保育所や地域での実践報告がされました。

神奈川県からは箱根の幼稚園長より幼児学園での、幼稚園、保育園の教育と保育を大事にした合同カリキュラムに基づき一人一人の子どもを大切にしたい保育、保護者対応、地域関係機関との連携などが発表されました。スクリーンやカラー刷りのパンフレット等も用意され、それぞれの地域での熱心な取り組みは興味引かれる内容でした。



助言者の関川先生からは、保護者の多様なニーズを考える視点

① 保育所が応えるべき社会

的ニーズなのか

② 個別的なニーズなのか
保育ニーズの整理の仕方。

保育所は地域のネットワークとなり、地域の人と一緒になつて考えて、一緒になつて作り上げていき、地域とともに子どもの育ちを支えていくことが大事。

また「保育所は地域の子育てのコーディネーター」になつて欲しいとの助言をいただきました。地域の連携の大切さ保育所に求められるコーディネーターの役割の重要性を感じた分科会でした。

他の分科会でも第六分科会で鎌倉市オランジェの林先生が意見発表。第三分科会では綾瀬市吉岡保育園の大塚先生が議長を務められました。初夏の美しい緑に包まれた軽井



沢での二日間の大会。

参加者は充実した研修と心のリフレッシュをして
「子ども達の幸せのためにまた明日からがんばろう」
との思いを胸にしたことでしょうか。

第47回関東ブロック

大塚 哲朗

地域とのつながりをテーマとした第三分科会の議長を務めた。そこで改めて子育て支援という考え方の幅の広さを感じた。保育所の存在理由のすべてといってもいい程だ。

そこでの大切な視点としては「子育て家庭すべての親に暖かいまなざしを」と言うことだろう。保育士の中には気になる親に対して厳しい見方をする人が少なくないが、とりあえず理解し、受け入れる姿勢が必要のように思う。

また世代間の交流という視点も子育て支援につながる。我々にはその役割を考えると、ますます幅の広さと柔軟な考えが要求されることだろう。

平成十八年度 新任保育士研修会

新任保育士研修会が、平成一八年七月四日（火）に行われました。若いエネルギーにみちた新任保育士の方七十七名が受講しました。

この日の講師はお二方で、午前が『子どもの夢と未来』の代表佐藤節子先生、午後が東京成徳大学教授の今井和子先生でした。どちらの先生も子ども達に向ける気持ちは、温かく情熱に満ち溢れていて、時として受講生が負けるほどでしたが、一日を通じて楽しく興味を持って受講できた研修でした。



午前のテーマは「子どもたちと共育ち」。子ども達と共に楽しい毎日を通すための保育のヒントを次から次へと出してくれたさる佐藤先生に釘付けで、保育士としての在り方も教えていただきました。

子どもたちが大好きな保育士とは、明るくいきいきとした笑顔、春風のようなイントネーションで話す先生だそうです。先生から子どもや保護者にとびつきの笑顔で挨拶しましょう。先生が先に心を開くこと！命を預かって、育んで、人生八〇年の初めの時の一番すてきな時に立ち会っているのです。物事をプラスに考えること、相手の立場に立つて考えることで、人としても温かくなれ、自分にも余裕がでるそうです。それと『ありがとう』と『おかげさま』の二つ気持ちを心に入れておくこと。また、今年度の自分の目標をはっきりさせることで、自分を持てるそうです。子ども

もは何にでもなる木です。同時に、子どもは大人の姿をよく見ていて、二〜三方月で担任そっくりになるそうです。

脳細胞は、起床後二時間で起き午後一時には閉じ始めるとのこと。その間保育園にいる子どもたちだからこそ、より豊かな経験を積ませ、右脳が活発になる遊びや学習の基本：①聞ける子（耳）②分かる子（脳）③自分でする子（実行力）…となる一点に集中する遊びを保育士がポケットいっぱいを持って、保育園が楽しいと思えながら生活できる選ばれる保育園にしたいものです。そのためたくさん遊びを教えてくださいました。

午後のテーマは『新任保育士としての心構えと保護者への対応』でした。国家資格としての保育士には、保育だけでなく保護者への子育て支援も必要です。同時に保育士に必要な倫理観（体罰の禁止・ジェンダー、守秘義務）についての説明から始まり『いい保育園』と『保育士に求められるもの』の中

に保護者への対応も含め話していただきました。

良い保育園とは、どの先生も自分の子どもの事が分かっている園。職員会議は、新人でも仕事を仲間として平等なので黙っていても駄目。会議の場では、書くことより、目を見て聞くこと話すこと。会話は、心と心が行き交うこと。日頃からの保護者との信頼関係を大切に！

そのための方法として連絡帳も子どもを良く見て、具体的にその子ならではのことを書く。その際、好意的発達評価をすることと保育士の関わり方も記入できると良い。そして、親の悩みに共感すること。保育のプロと子育てのプロとは違います。保護者に温かい保育園でありたい。子育ては、子どもが発達の道筋をたてて育っていくのを一緒に共感しながら支えていくことだそうです。

保育士に求められるものは、子どもの心の育ちを大切にすること。目に見えないものを大切に！そのために書くこと

を大事にする。感動したことも書くことで忘れない。何が大事なのか視点を定めるためにタイトルをつける。行為の意味を考えながら記入するとより具体的になり、その行為に対しての保育士の関わりかたも記入できると良いそうです。

一・二歳児の子どもの行為は自己表現です。二歳児は、へソ曲りの時期でもあります。子どもの視座に立つて、なぜと考えることでみえてくるものがあるそうです。人間の喜びは、自分のことを分かってくれること。自我が出てきたその子の真実の求めを言葉にしてあげること。ラベリングで自尊心もできる。子どもの言葉の獲得は心の獲得に通じます。子どもも変わっていくように、保育士も変わられる。しっかり相手に思い伝えていく。物事は、聞くことしなれば聞かえない、見ようとしなければ見えません。さあ、どんな、素敵な保育士さんに変わっていくのでしょうか。楽しみます。

第16回 市町児童福祉主管課長との連絡協議会

梅雨明け間近、久々の晴れとなった七月二十六日に市町児童福祉主管課長と県保育会委員との連絡協議会が開催されました。

この「連絡協議会」は主管課と保育園現場の代表が当面する保育の諸課題について共通認識を深め、意見交換を行い、保育の充実と進展に資する事を目的として、毎年開催されております。

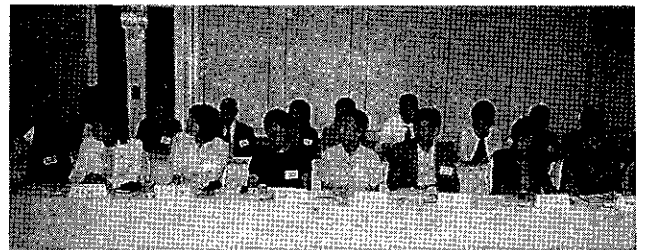
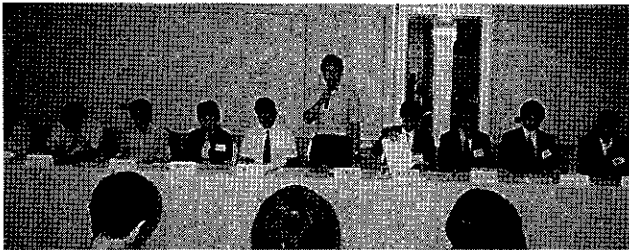
神奈川県から島津次世代育成担当部長をはじめ四名、各市町から十七名が出席された。島津次世代育成担当部長より来賓のご挨拶をいただきました。各市町、保育会委員の自己紹介のあと、都築会長から趣旨説明がありました。子ども



も家庭課次世代育成担当課長より、六月九日に国会で可決された「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」に基づく「認定こども園」について、六月十五日に公布された法律や認定基準に関する国の指針を受けての説明がされました。

次に、都築会長の司会進行のもと横須賀市、小田原市、藤沢市の状況などについての話しがありました。保育会委員からの質問などを交え時間を延長しての活発な質疑応答がされました。

このあと、場所を移しての懇親会が持たれ、和やかな雰囲気の中、意見交換などが行われました。



高谷保育園

園長 榎居祐二

七月二十六日に行われた「市・町児童福祉主管課と県保育会委員との連絡協議会」の席上「認定こども園」を巡る質的及び意見の発表を調査研究部長として行わせていただきました。

席上では厚生労働省のバブルックコメント募集に対して、全保協や全国保育士会から提出した意見書を県の条例化に当たっても取り入れて頂けるよう、各市町、そして県当局に要望することを主眼に致しました。また各当局にそれが届いていなかったからです。従って、この席においては幼保連携型についてはバブルックコメントに譲り幼稚園型、保育園型の問題点を主に指摘しました。無認可保育園が幼稚園内に作られる場合の保育の質や認定基準がダブルスタンダードになる問題等です。

しかし、これからの最大の問題は幼保連携型として認可幼稚園の空き教室を利用して作

られる(十人以上ならで可)認可保育園の作られ方です。法律では保育園の認定に当たって市や町の意見を聞くとは書いてありません。しかし、

保育の実施機関はあくまで市町ですし、財政的にもその負担が大きいのに市や町を素通りして県が認可をおろすと言ふようなことがあつてはならないというのが最大の問題です。結論的に保育園の認可についての今までの要綱は今後も生き続けるし、認可保育所の必要性や将来の見通しは市町の判断をしっかりと求めて県の判断の材料にするというように県の条例は作られて欲しいです。

その上で「認定こども園」の認可は県の権限であることは法律の定める通りですから言うまでもないことでしょう。いよいよ秋の県議会の論議に注目したいです。

また各市や町の当局との意思疎通をしっかりと保つことが必要でしょう。

各部だより

総務部

平成十八年度がスタートすると同時に「第四十回保育事業大会」が開催されました。

前々から準備はしていたものの、何かとあわただしいままに当日を迎えた。第四十回ということで厳かな中に式典は

進み、永年勤続者九十三名の表彰と記念品の贈呈が行われた。また、厚生労働大臣表彰受賞者、県保育賞受賞者等が

紹介され、共に受賞の喜びを分かち合うことができました。午後からはテーマ別に第一・第二・第三会場に別れて研究

発表が行われ、参加者は熱心に発表に聞き入り、見識を深めた様子でありました。

総務部は毎月一回開催される部会および全保協会長表彰選考委員会や特に七月二十六日にはキヤメロットジャパン

において島津神奈川県次世代育成担当部長、木村同課長の

両氏を迎え、「認定こども園」

に対する県の対応など詳しい説明を木村課長よりお話しただいた。その後県内市町担当課長より各市町における状況

報告を受け、県保育会委員を交え質疑応答や熱心な意見の交換が行われました。

「認定こども園」については、県保育会民間保育所経営問題専門委員会の「制度分科会」においてもすでに勉強会が開かれている。

今後引き続き総務部では、各部の円滑な組織運営の補助・県への予算要望など、県保育会の財務運営全般に関し活動を行っていきます。

研修部

「新任保育士研修会を七月に行いました。九月に専門講座Ⅰを予定しています。」終わりでは面白くも何ともない。

そんなの知ってるよ、でおいまいである。そこで活動を通して何か苦勞話でもと思うのだが、肝心なことは事務局におんぶにだっこで、たいした

話もない。

とはいっても当日お世話をした係としてはやはり参加者数と中身の評判は気になるものではあった。

この点では先の新任研修会は二重丸をつけてもいいのではなかったらうか。

参加者は予定数を上回り、会場は座ることが出来ない人まであり少々あせってしまっただけだ。内容としてもこれまた主催者のひいき目かもしれないが、お二人の先生に実践的な面白さ、楽しさ、そして理論的な考え方をちよつと

違った形でお話ししていただき新任の先生方にはお役にたつたのではないかと思う。

さて次回の研修会は二年越しでお願ひしていた佐々木正美先生の講座である。きつとそこに保育の原点が見いだせるに違いない。

研修の機会は多くの刺激を与えてくれる。それは研修内容よりも、仲間との出会い、触れ合いも大きい。また

貴重な情報交換、悩みの共有などは改めて新鮮な気持ちに

させてくれるものと思う。

研修への参加は自分が抜けた穴埋めを他の人をお願いしてはじめて可能となるもの。皆を代表して参加した成果は是非戻って皆に分け与えて欲しい。

公立保育所専門委員会

わが国の少子化の傾向が回復の兆しを見せず、人口減少社会に転じていく状況の中で、厚生労働省が発表した人口動態統計の速報で、今年六月に

生まれたこどもの数(出生数)が、五カ月連続で前年同月を上回ったことがわかりました。

少子化が続く中、一時的な上昇傾向ではなく、長期的な出生率の低下に歯止めがかかることを期待したいですね。

公立保育所専門委員会では十八年度十六名の委員でスタートし、各市町の情報交換を行い、それぞれが地域で新たな取り組みへの参考にしたり、内容の充実に役立てています。

内容としては、少子化と言われながらも神奈川県ではこ

く一部を除き「待機児対策」

の現状と対策、「児童虐待」「食育への取り組み」「障害児保育」「一時保育」「地域と連携しての子育て支援」ここ数カ月は「認定こども園」についても多くなっています。

また、民営化の流れの中で公立保育園として、今後の役割や取り組みについての検討。保育士の資格を持ったアルバイトの需要に対し、見つけにくい現状等。毎回活発な意見が交わられています。

子どもを取り巻く悲惨な事故や事件が多いこの頃、乳幼児期における保護者を含めた多くの人達との関わりや、生活のあり方を通して心を育てることが大切と痛感しています。

様々な課題をかかえる中で今後、地域でどうしたら充実した「次世代育成支援」に取り組んでいけるのか。「一人一人の子どもの健やかな育ち」を願ひ今後活動も続けていきたいと思っております。

給食問題研究委員会

食育普及推進に向けて

食育基本法が成立して一年余となりました。ご存知の通り、内閣府・文部科学省・厚生労働省・農林水産省が、家庭・学校・保育所・地域等を中心に、国民運動として食育の推進に取り組んでいます。

先日、県子ども家庭課より食育普及推進に関するアンケート調査がありました。設問の中に、保育計画または指導計画の中で、食育の計画を策定していますか。という項目がありました。各保育園ではどのように回答されたのでしょうか？

昨年度より給食問題研究委員会では、各保育園における食育の取り組みとして、食育の年間計画を中心に検討をしています。子ども達の保育生活の区分に応じて、四期に区分し、保育目標を考慮して計画を作成する必要があります。当委員会では、各委員より提案された年間計画を研究材料

にして、来年一月に開催予定の県保育会「食育研修会」にて具体例を提案したいと考えております。

食育年間計画の作成について、ご意見や資料提供していただける会員園がございましたら、事務局にご連絡ください。

今後、神奈川県子ども家庭課と連携して、過日のアンケート結果や様々な取り組みをまとめ、会員園や家庭・地域の食育普及推進に活用していただければ幸いです。



「ホームページを使った保育園の情報提供について」

最近、ホームページを持っているという保育園もかなり増えてきました。保育園がホームページを作成する主な目的としては一つ目が「これから入園を希望する保護者に対しての情報提供」そして二つ目が「在園児の保護者へ向け

ての情報提供」が中心となっているようです。

一般的にホームページというのは、どのような場面で最も効果を発揮しているのでしょうか？身近なことで取り上げてみます。たとえば旅行で考えてみましょう。旅行へはいろいろの準備が必要です。

宿泊先のホテルや旅館の情報、またその周辺の観光名所なども調べておく必要があると思われまふ。そうすることにより、行く先々でスムーズに旅行を楽しむことができます。

今まではそれらの情報を旅行雑誌やツアーガイドを頼りに情報を手に入れましたが、得たい情報はもつと細かくそして自分の好きなように知りたいのが情報を受信する側の欲求だと思われまふ。昔は、細かいことを聞くと「うるさいお客さん」だったのが最近では細かく聞いても答えられない方が「サービスが悪い」と叱咤される時代になってきました。旅行でも何でもそうですが何かを計画し、それを決定したり実行したりすると

きの資料として関連する情報をホームページで集められるのがインターネットの魅力だと思われまふ。特に、今ではホームページが普及し、より細かく丁寧な情報を掲載している度合いが高くなってきました。ホームページのサービスが向上すると、閲覧する側の要求も年々高じてくるので、ホームページは持つて当たり前の時代が来るのはもうすぐのことだと感じまふ。

さて、情報を手にする側はホームページを使って知りたいたい情報を集めるといふことは述べたとおりですが、ではホームページで情報を発信する方はどのようにしたらよいのでしょうか？これだけの情報過多といわれる時代に、そろそろホームページを持ちたいけれどいったいどうしたらよいのかと悩むこともあると思われまふ。よくご相談を受けるのは、「園児は多いのにどんな情報を掲載するのですか？」「どこまでの情報を公開すればよいのですか？」紙との使い分けはどうすればよいので

すか？」等々です。基本的な部分は日ごろ先生方がなさっている情報の発信方法と同じように行えばよいのです。それがホームページに変わっただけなのです。つまりホームページで情報提供を行っていただくために最も重要なことは「誰に何を伝えたいのか？」をまず決めることからはじまります。そして「ホームページで伝えたい相手の欲しがっている情報が何なのか？」をよく理解することがうまくいく方法だと思われまふ。

もちろん、そうするために日頃からアンケートや電話での質問を記録するなど、受信する側の「欲する情報は何か」を常に心掛けておくことも、今後の情報化社会にとって大切な要素となります。ホームページでの情報提供は先方の仕事を増やすものでもありませんし、園の自由を縛るものでもなく、地域の子育ての中核になる施設としてより認められ、園発展の手助けになっていくものと思われまふ。